



Japan Historic Car Tour 2011

2011.6.3/4/5
Kanagawa - Yamanashi - Shizuoka - Nagano



JALPAK

TESLA



MOTUL

KÉRASTASE
PARIS



ヒストリックカー/スーパーカーによる 本格的なレギュラリティ・ラン

今回の"ジャパン・ヒストリックカー・ツアー 2011"は、例年同様、"走る自動車博物館"として数多くの方々に親しんでいただくことをファースト・コンセプトとしつつ、セカンド・コンセプトとして"エコロジー"と"もったいない"というキーワードも掲げた。ヒストリックカーを中心とする世界的名車を究極の工芸品(貴重な文化遺産)として捉え、単なる道具(移動手段)にはとどまらないクルマたちを走らせ、ベストコンディションのまま後世に遺していくことの素晴らしさをアピールした。

text: Hidenori TAKAKUWA (高桑秀典)

photo: Keisuke MAEDA (前田恵介)/Keigo YAMAMOTO (山本佳吾)

クルマの魅力と変遷を肌で感じることができる日本最大規模の公道ヒストリックカー・ツアー・イベント"ジャパン・ヒストリックカー・ツアー 2011"が去る6月3日から6月5日までの日程で開催された。

金、土、日という3日間に亘る全行程を簡単に説明すると、神奈川、静岡、山梨、長野という4県を駆け抜けるというものだ。

第8回目となった今回はスタートおよび最終ゴール地点を横浜美術館とし、館内のグランドギャラリーに新旧ベントレーを展示することで会場に足を運んでくれた数多くの人々に"アートの範疇にある貴重な

クルマの造形美"を思う存分堪能してもらった。

6月3日は、そのような文化的な展示イベントが華を添える中でのスタートとなったが、1分おきに全車がスムーズに発進し、首都高速、保土ヶ谷バイパス、東名高速、富士山スカイライン、国道138号線、国道413号線というルートで1日目のゴール地点である山中湖を目指した。

当ツアーは、ルートブック(コマ図)によって定められたルート上に存在するC.P.(チェックポイント)を通過するタイミングの正確さを競う種目と、指定された平均スピードで一定の距離を走り、ドライビング

の正確さを競う種目という2種の競技の得点を加して順位を決定するレギュレーションだが、初日富士サファリパークの近くにてSPEED GUN C.P.を実施し、山中湖交流プラザ きららを会場としC.P.を行なった。

2日目は今回のツアーで最長となる400kmを超えるルートが設定され、各車は山中湖を起点とし安曇野、白馬、霧ヶ峰高原、白樺湖を経て、このゴール地点となる蓼科を目指すというロングツアリング(冒険旅行)へと早朝から出発した。行程長いことに加え、C.P.の数も多く、また、美しい山みや雄大な景色の中を愛車で気持ちよく疾走できることもあり、まさにこの日が当ツアーの醍醐味を最も色濃く味わえる好機だったが、なんと、崖崩れ等影響でルート上の2箇所が走行不可(通行止めになっていた)となり、イベント当日にルート変更がなわれるという緊急事態となってしまった。

今回も当ツアーにご協賛いただいているガーマン社製のナビが全エントリーに進呈されていたこともあり、事なきを得たが、ガーマンが無ければ相長い1日になっていただろう。

ツアー最終日は、まず蓼科から葦崎の日本航空学園へ向かい、ここの滑走路にて昨年も実施された最高速チャレンジを行なって、甲府の常磐ホテルでの昼食後に御殿場経由で最終ゴール地点である横浜美術館まで一気に愛車を走らせるというルー設定だった。

改めて説明するまでもなく、今年はツアー前に日本大震災が発生し、イベントの開催自体について、中止することも含めて株式会社ネコ・パブリッシング イベント事業部内において慎重に検討するとなった。しかし、当ツアーを復興支援イベント位置づけ、予定どおりのスケジュールにて開催した。

往年の名車やスーパーカーが各地を元気に走り回る姿を見て、子どもたちが夢を抱き、日本の未来が少しでも明るくなってくれれば幸いだ。



1955年式ポルシェ 356 プリア スピードスターを駆るRYUKEN氏は"ジャパン・ヒストリックカー・ツアー"の全ラウンド(北海道/神戸ステージを含む全10戦)に参戦しており、今回、皆勤賞を受賞した。



今回のツアーは東日本大震災復興支援イベントとして実施された。収益の一部を義援金に充てた他、募金箱がツアーに帯同し、スタート/最終ゴール地点となった横浜美術館等で義援金を募った。

Day3

◎6月5日(日)

◎総走行距離:229.09km

[Route] エクシブ蓼科→国道299号線→中央道→国道20号線→日本航空学園→常磐ホテル→国道137号線→河口湖→東富士五湖道路→須走→東名高速→保土ヶ谷バイパス→首都高速→横浜美術館



スタート/エクシブ蓼科



豊かな自然に抱かれたエクシブ蓼科は『プリティッシュ・カントリー・スタイル』をテーマとしている。素晴らしい施設と環境の中で英気を養った参加者たちは、ツアーの最終ゴール地点である横浜美術館へ向け、早朝から愛車のアクセルを力強く踏み込んだ。

今年同様、日本航空学園での最高速計測で大いに盛り上がる

ツアーの最終日は朝に蓼科を出発した第1号車が14分弱で横浜美術館にゴールするというタイトなタイムスケジュールだったこともあり、日本航空学園での最高速チャレンジ (CP-10~CP-12) と常磐ホテルで昼食 (レストコントロール) が主なタスクとなった。



メルヘン街道

エクシブ蓼科からクルマで10分弱程度の場所にあるワインディングロードは『メルヘン街道』と呼ばれ、この美しい山坂道では都市部での生活では堪能することができない清々しい空気の中で愛車の咆哮を楽しむことができた。

中央道

南インターから中央道へ入った一行は、吉田インターまでクルージング。その後、国道137号線を使って、最高速チャレンジの舞台となる日本航空学園へ向かった。



日本航空学園

最高速チャレンジとして行われたCP-10~CP-12は、スタート地点~CP-10までが100m/16秒、CP-10~CP-11までが100m/14秒、CP-11~CP-12までが100m/12秒という設定で、CP-12以降に最高速計測を実施するというものだった。各クラスにおいて最高速をマークしたクルマを列記しておく、ヴィンテージカークラスがゼッケンNo.03のMG PAスペシャル (1934年式:最高速89km/h)、ヒストリックカークラスIがゼッケンNo.37の日産・フェアレディZ432 (1970年式:最高速134km/h)、ヒストリックカークラスIIがゼッケンNo.38のマセラティギブリSS (1971年式:最高速129km/h)、スーパーカークラスがゼッケンNo.58のメルセデス・ベンツ SLR マクラーレン ロードスター (2009年式:最高速178km/h) というリザルトとなった。



ツアー最終日の昼食会場は、甲府・湯村温泉の常磐ホテルだった。2日目のホテルグリーンプラザ白馬での昼食と同じように、このランチタイムは「レストコントロール:60分」となっており、参加者たちは指定された時間内でリフレッシュした。



甲州街道



常磐ホテルでの昼食後、国道20号線~国道137号線~河口湖というルートで東富士五湖道路の富士吉田インターへ向かったエントラントたちは、須走経由で東名高速へ入り、最終ゴール地点である横浜美術館へと愛車を走らせた。

常磐ホテル



横浜美術館

貴重な名車たちが集うことで知られる「ジャパン・ヒストリックカー・ツアー」だが、今年はイエロー・ポネ・ジェット5 (1965年式) に特に熱線が注がれた。数多くのクルマ好きを魅了した際には、BESTパフォーマンス賞が贈られた。ゴール点となった横浜美術館には、MOTULブース、TESLAブース、いいよねっと (ガーミン) ブース、ラティミなどみらい (7月6日オープン) ブースが設けられた。ベントレー3.0でエントリーし、日本航空学園での最高速チャレンジにフェアリー458イアで参加したお馴染みの千葉さんは、女優の夏子さんと共に横浜美術館に姿を現した。

究極の工芸品である世界的名車を展示

「ジャパン・ヒストリックカー・ツアー」の根底には、世界的名車=究極の工芸品であるというスピリットが流れているため、今回のツアーでスタート/最終ゴール地点となった横浜美術館のグランドギャラリーにてベントレー・ミュルザンヌ (新型) と1927年式ベントレー4 1/2リッター「Old Mother Gun」 (1928年のル・マン優勝車) を展示した。



■エントラント紹介

ジャガーEタイプ・シリーズIIロードスター (1968年式)



天野さん/大浦さんは、すでに当ツアーの「顔」となっている名コンビだ。「このツアーに参加したことにより7つ目のガーミンをいただきましたが、ルート変更が痛感したことはありませんでした。テスラ・ステージも楽しかったです」とは天野さんのコメント。

ヒストリックカー関連のイベントに出始めてから30年という長いキャリアを誇っている紅粉さん (写真左) / 黒田さん組は、エレガントかつパワフルなギブリSSで全行程を走り抜いた。紅粉さんは「当ツアーには初めて参加しましたが、走行距離が長くて面白かったです。今回参加したことにより、このツアーには新しい風が吹き込んできていることを確認できた点もよかったです」と語ってくれた。



マセラティギブリSS (1971年式)

54台の車輜で競われたJHCT2011

今回の"ジャパン・ヒストリックカー・ツアー"は、梅雨入り後の開催だったにもかかわらず3日間とも好天に恵まれた。オープン・モデルで参加したエントラントにとって、今年是非常に快適なツアー（3日間に亘る冒険旅行）だったに違いない。

当パートでは、最終日に横浜美術館のレクチャーホールにて行なわれた表彰式の模様をお伝えしよう。

●右のアドレスのHP (<http://www.hobidas.com/event/jhct/>) でもリザルトを確認できます。

ヴィンテージカークラス ●戦前（1945年以前）に製造された車輜



ヴィンテージカークラスには、4台の名車たちがエントリー。レギュラリティ・ランを走り慣れたドライバー/ナビゲーターが出走したこともあり、今回見事に総合優勝を飾ったのは、このクラスにエントリーしたフィアット 508S ブラックダイヤモンドⅡだった。



**フィアット508S
ブラックダイヤモンドⅡ**
瀧川さん / 裕戸さん組のフィアット 508S (1935年式) がジャガー E タイプを駆る天野さん / 大浦さん組の3連覇を阻むかたちでクラス優勝と共に総合優勝を果たした。



フィアット508S
ヴィンテージカークラスの2位にもフィアット 508S (1933年式) が入った。搭乗した久住さん / 出川さん組には、CTEKのバッテリーチャージャー & メンテナーが進呈された。



MG PAスペシャル
日本航空学園でのトップスピード計測でヴィンテージカークラス最速だったゼッケン No.03 のMG PA スペシャル (入川さん / 猪田さん組) が3位に入賞した。

ヒストリックカークラスI ●1946～1979年までに製造された車輜で排気量2000cc以下



今回のツアーにおいて最多エントリーとなる26台の車輜が出走したヒストリックカークラスIは、入賞したクルマの顔ぶれがバラエティに富んでいた。ちなみに、フィアット 8V ザガート (1952年式) で出走した堺 正章さんは同クラス4位でツアーを終えた。



トヨタ 2000GT
後期型の2000GT (1970年式) で参加した森田さん夫妻が二日目と同じ安定した走りで見事にヒストリックカークラスIを制した。



モーガン 4/4
初日、二日目とも上位にランクされた稲川さん / 松居さん組が2位に入った。稲川さんもジャガー E タイプを駆る天野さん / 大浦さん組と同じように当ツアーの常連だ。



ホンダ S800
稲川さんのモーガン 4/4と初日から熾烈な優勝争いをしてきた古屋さん夫妻のエスハチ (1967年式) が見事に3位入賞を果たした。

ヒストリックカークラスII ●1946～1979年までに製造された車輜で排気量2000cc以上



排気量が2000cc以上の名車たち (総勢12台) が出走したヒストリックカークラスIIでは、Eタイプとヒーレー100がひと際目立つ存在となった。その他、フェラーリ 365GTC4 や 308GTB、マセラティ 450S などが沿道のクルマ好きを魅了した。



**ジャガーEタイプ・シリーズII
ロードスター**
"ジャパン・ヒストリックカー・ツアー"の3連覇に対する期待が大きかった天野さん / 大浦さん組だが、惜しくも総合優勝は果たせなかった (クラス1位は獲得)。



オースチン・ヒーレー100
青木さん夫妻が駆る1955年式オースチンヒーレー100 (BN1) が二日目の好成績に後押しされるかたちで2位に入った。



オースチン・ヒーレー100
東さん / 内田さん組の1954年式オースチンヒーレー100 (BN1) は3日間を通じて危ない走りを見せ、3位入賞を果たした。

■主催 ジャパン・ヒストリックカー・ツアー 2011 実行委員会
株式会社ネコ・パブリッシング

■共催 横浜美術館

■ラリー運営 NASC SAND WORKS PROJECT

■協賛 株式会社いいよねっと/株式会社ジャルバック/テール・ジャパン K.K./テスラモーターズジャパン/ベンモーターズ ジャパン/ランボルギーニ ジャパン/ (50社)

■後援 横浜市/山梨県 (順不同)

■協力 メルセデス・ベンツ日本株式会社/ジャガー・ランドローバー・ジャパン株式会社/クラスターゼ/ミストラル・ティックス/リゾートトラスト株式会社 (エクシブ 藤科/山の中湖)/株式会社常磐ホテル/学校法人日本航大/株式会社ポストン/株式会社トランスウ・hawaiiwater.biz/ (順不同)

スーパーカークラス

●1980～2011年までに製造されたスーパーカー

新旧様々な車輜が顔を揃えたスーパーカークラスにも全12台がエントリーした。ツアーの華とも呼べる当クラスには今年もフェラーリ、マセラティ、ポルシェ、ロータス、SLR マクラーレン、190E エボ2などが参加し、スタート/ゴール風景を見ているだけでも楽しかった。



フェラーリ 360モデナ
生粋の自動車趣味人として知られる倉島さん / 国房さん組が2位に入った。美しいフェラーリサウンドを響かせながら中央道などを走る姿はまさに"精悍"のひとつと言った。



フェラーリ 612スカリエッティ
フェラーリ 308GTB で出走する予定だったものの、ナビゲーターの都合がつかなくなり、急遽ファミリーで参加することになった手塚さん夫妻 (お子さまも同行) が1位を獲得。

ベントレー・コンチネンタル GTC
終始エレガントな走りを披露した榎原さんのコンチネンタル GTC が3位で冒険旅行を終えた。今回のツアーの様子はTVKで毎週日曜日に放映されている『クルマでいこう!』でも紹介される (初回は7月10日放送)。



ツアーを彩った6台の アウディと3台のVW

今回の"ジャパン・ヒストリックカー・ツアー 2011"を取材するにあたり、フォルクスワーゲン・グループ・ジャパンより6台のアウディと3台のフォルクスワーゲンをお借りした。ツアーに先行して移動することが求められる受付/駐車場誘導スタッフがアウディに乗り、同行取材班がフォルクスワーゲンを活用したが、乗員が少ないアウディはもちろん、撮影機材を積んだフォルクスワーゲンも、あらゆるシチュエーションで質の高い走りを披露してくれた。ドライバーを含むすべてのパッセンジャーがまったく疲労を感じることなく長距離移動を難なくこなせる点がアウディおよびフォルクスワーゲンの魅力のひとつだといえるだろう。



■Audi

S4、A3、A4 Avant、Q7、TTS Coupe、A7 Sportback というバラエティに富んだ顔ぶれとなった。先進の技術で高効率を実現し、エクステリア・デザインがスポーティなアウディは、「エコロジー」というキーワードを掲げる当ツアーのコンセプトと見事にマッチする。

■VOLKSWAGEN

フォルクスワーゲンは、トゥアレグ、クロススポル、そして、ゴルフ・ヴァリアントというラインナップとなった。筆者はカメラマンと共にクロススポルに乗り、ツアーの同行取材を敢行したが、全行程を走っての平均燃費が17km/リッター弱という素晴らしい数値だった。



Day2 ◎6月4日(土)
◎総走行距離:403.82km(当初予定)

Route] エクシブ山中湖→国道138号線→東富士五湖道路→御坂峠
→中央道→白馬コルチナ→国道148号線→33号線→筑北
→国道403号線→県道65号線→萩窪→62号線→旧和田峠
→40号線→ビーナスライン→エクシブ蓼科(当初予定)

**好天に恵まれたが通行止めの影響で
ルート変更を強いられた**

ツアーのメインとなる2日目は総走行距離が400kmを超えるという走り甲斐のある一日だったが、ルート上の2箇所が発生した想定外のトラブル(崖崩れ等)により、急なルート変更を余儀なくされた。しかし、ガーミン、雨用ルート、参加者たちの冷静な対応により、大きな混乱には発展しなかった。



スタート/エクシブ山中湖



エクシブ山中湖から見える富士山物凄くキレイだった2日目の朝8時スタートだった。まず、ヴィンテージカークラスにエントリーしている戦前の名車たちが過酷なロングツーリングへと出発した。

東富士五湖道路



山中湖インターから富士吉田インターまでの短い区間ではあったが、参加者たちは東富士五湖道路で愛車の走りのよさを再確認した。

御坂峠



東富士五湖道路の富士吉田インターから中央道の一宮御坂インターまでは、一般道で御坂峠を走破するルートが設定された。

中央道



堺正章さんの愛機 No.06のフィアット 8V ザガート。「イベントの演出、走行ルートの景色が非常に良かった」という感想を聞かせてくれた。

八方尾根



緯度、経度をガーミンに入力してポイントを探す「ガーミンポイント」がノーマルヒルとラージヒルの並列型となっている白馬ジャンプ競技場の周辺に。



**ホテル
グリーンプラザ
白馬**

2日目のC.P.はホテルグリーンプラザ白馬の広々とした駐車場にて実施された。ここで行なわれたのはCP-4～CP-9で、昼食(レストコントロール)前にCP-4～CP-6、昼食後にCP-7～CP-9という内訳だった。

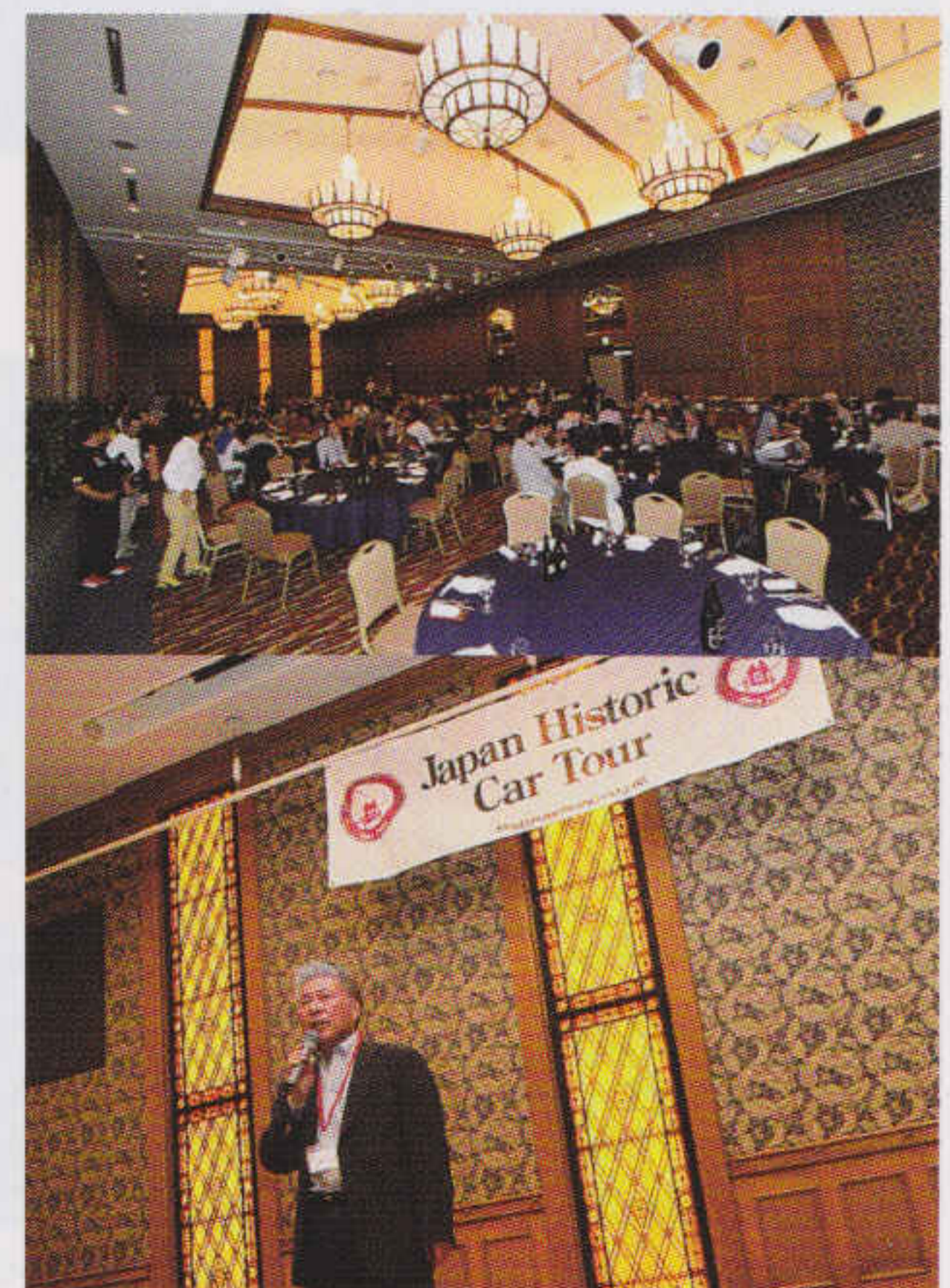


TESLA STAGE

ハイパフォーマンスと効率性のよさを高い次元で両立させたゼロ・エミッション・ビークルのテスラ・ロードスター・スポーツを駆り、指定タイムに対するの誤差を計測する「TESLA STAGE」もC.P.と共にホテルグリーンプラザ白馬の駐車場にて実施された。ちなみに、ターゲットタイムはスタートから第1ポイントまでが5秒、第1ポイントから第2ポイントまでが7秒という設定だった。気になるリザルトは、ゼッケンNo.34のジャガー E タイプで今年もツアーに参戦してくれた天野さん組が1位で、堺さん組は2位でフィニッシュした(宿泊先であるエクシブ蓼科到着後に希望者による試乗会も開催された)。



パーティ



開始時間を30分ほど遅らせ(エンタラントの疲れを考慮)、19時半から開催されたパーティは、やはり、冒頭から通行止めによって走行ルートが変更されたことが主な話題となった。この日のC.P.競技およびTESLA STAGEのリザルトは当パーティにて発表された。

**Japan
Historic Car
Tour 2011** シークレットC.P.



通行止めの影響でホテルグリーンプラザ白馬でのC.P.後に、国道19号線～国道403号線～国道143号線～県道65号線を走るルートと、旧和田峠を走破するルートがキャンセルになったが、白樺湖からエクシブ蓼科へと続くルートでのシークレットC.P.(この区間は45km/hで走行することが求められた)は無事に実施された。なお、ゼッケンNo.59のマセラティ・グランツーリスモ Sを駆る小川今日子が設定タイムに対して0.0635秒差という好成績でシークレットC.P.を制した。

ゴール/エクシブ蓼科



ルート変更(予定になかった上信越道の長野インター～上田菅平インターまでを走破/雨用ルートの国道152号線～大門峠を走破)があったものの、参加者たちは夕暮れ前に2日目のゴール地点であるエクシブ蓼科に辿り着いた。



走行距離こそ短いものの行程の終盤でC.P.競技を実施

初日は金曜日だったが、事前に『スタート地点の横浜美術館は絶好の見学ポイント』であることを告知していたため、数多くのクルマ好きが駆けつけた。受付、ブリーフィング、昼食の後、13時に第1号車がスタートするというタイムスケジュールだった。

スタート/横浜美術館



3日間に亘る冒険旅行のスタート地点は、平日にもかかわらず数多くのクルマ好きが詰めかけた横浜美術館だった。第1号車が13時に出発し、その後、1分間隔で各車がスタートした。参加者には、イベントのプログラム、ゼッケン、コマ図などの他に、お土産として、ガーミンのナビ(nuvi1460)、JAL バッグのパンフレットなどが進呈された。

東名高速



SPEED GUN C.P.



アベレージスピード: 54.5km/h で走破することが求められる SPEED GUN C.P. が富士サファリパーク近くの直線路にて実施された。

東名高速、保土ヶ谷バイパス経由で東名高速へと入った一行は、裾野インターからは再び一般道を使い、富士山スカイラインを目指した。ちなみに、ゼッケン No.01 のベントレー 3.0 (1924 年式) およびゼッケン No.61 のベントレー・コンチネンタル GTC は最終日に行なわれた表彰式で共にベントレー賞を受賞。

富士山スカイライン



今回のツアーにおいて、参加者たちの前に初めて現れた「本格的かつ景色がいいワインディングロード」が富士山スカイラインだった。



山中湖交流プラザ きらら

C.P. では前輪が計時ラインを通過した時点から計測が開始される。山中湖交流プラザ きららでの C.P. は、距離および設定タイムとも当日に発表されたが、スタート地点から CP-1 までが 15m/6 秒、CP-1 から CP-2 までが 25m/7 秒、CP-2 から CP-3 までが 40m/10 秒だった。

ゴール/エキシブ山中湖



155.97km を走り終えた参加者たちは、一日目の宿泊地であるエキシブ山中湖のパーキングに愛車を止め、順次チェックインした。



パーティー

チェックイン後、しばらくの間リラックスした時間を過ごしたエントラントたちは、19時スタートとなるパーティーに出席。乾杯の挨拶の後、美味しい食事を堪能しながら初日の行程を談笑しながら振り返った。



新型コンチネンタルGTも参加

フルモデルチェンジにより、全方位的にブラッシュアップされた新型のベントレー・コンチネンタルGT がツアーに帯同するかたちで参加した。ワイド感が強調されたエクステリア、使い勝手がよくなったインテリア、そして、軽量化された車重やシフトチェンジのスピードが速くなった点などが今回のフルモデルチェンジにおける代表的なトピック。

今回も先行/先導車はランボルギーニ・ガヤルド

ブラックのガヤルド LP550-2 が第1号車がスタートする1時間前にコマ図どおりのルートを試走する先行車として全行程を走り抜け、オレンジのLP570-4スーパーレジェーラが第1号車の少し前を走る先導車としてツアーを彩った。

